

発行所 (郵便番号100)  
東京都千代田区丸の内2-4-1  
丸の内ビルディング781号室  
社団法人スウェーデン社会研究所  
Tel (212) 4007・1447  
編集責任者 堀内六郎  
印刷所 関東図書株式会社  
定価200円 (年間購読料参千円)  
1979年12月25日発行  
第11巻 第12号  
(毎月1回25日発行)  
昭和44年12月23日第3種郵便物認可

# スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol.11 No.12

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning  
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)  
Marunouchi-Bldg., No. 781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

## フェルディン政権とその楽観主義

Fälldin Cabinet and it's Optimism

早稲田大学助教授 岡 沢 憲 芙  
Assist. Prof. Norio. Okazawa

今回の選挙では「誰が勝つか VEM VINNER VALET?」が最大の争点であった。懸案とされていた原発問題が来年3月の国民投票に持込まれたため、《争点なき選挙》の感が一層深まった。このこと自体は、体制選択問題より微調整問題が選挙戦で大きな比重を占めているこの国としては珍しいことではない。だが、これ程までに勝敗の帰趨に関心が集中した選挙は珍しいといえよう。

各党首は旺盛な政権担当意欲を表明した。例えば、フェルディンは「国民投票の結果に関係なく、その後でも中央党は政権を担当できる」と表明し、「社民党に代わる政権代案」をアピールした。ボーマンさえ「選挙結果次第では私も首相になる決意はできている」と政権を口にした(8月13日)。また、パルメは過去の栄光を、ウルステンは昨年以来的実績を背景に、当然のことながら、政権担当の決意を隠そうとはしなかった。

政権意欲が複雑に交錯する中で展開されたこの選挙では、《右の風 högervinden》と《左の風 vänstervinden》が吹いた。穏健党(+18議席)と社会主義ブロック(+5議席)が躍進し、中央党が大後退した(-22議席)。

349番目の議席が穏健党の手に落ちた時、ブルジョワ三党間で激しい政権争奪劇が演じられることになった。《78年10月の政変》とは違って、フェルディンが主導権を握った。彼は、先ず、中道ブロック(中央+国民)の数的優位(計102議席)を楯に、上昇気流に乗った穏健党(73議席)の野

望を封じた。穏健党は8ポスト提供の申し入れでボーマン首班論を断念した。問題はウルステン首班論が強い国民党との欲望調整であった。ここでボーマンがフェルディンを助けた。10月政変でウルステンの戦略に屈した辛い経験を持つ彼は、ポスト増の厚遇を受けて、フェルディン首班三党連合政権論を提唱したのである。フェルディンはこの支援を背に、国民党説得に乗り出した。ポスト増(5から6)が説得の武器であった。僅か39議席で単独少数党政権を率いることに成功した策士ウルステンも、こうなると<古いチーズ gammal ost>を食う以外に道はなかった。

大敗した政党の党首が指導するこの最小勝利連合政権はいくつの特徴を持っている。①閣僚配分比(穏8、中7、国5)から見て、政権レベルでは専ら《右の風》が吹きそうなこと。②新人閣僚6名を登用し、平均年齢が下がったこと(50.1歳)。③女性大臣が5名となり、前内閣より後退したこと。④そして、何よりも、《疑う余地なき楽観主義 klar optimism》が支配していることであ

### 目 次

フェルディン政権とその楽観主義……	
……………岡沢 憲芙…	1
1979年議会選挙の最終結果……………	2
福祉政策の統合化について(研究シリーズ(7))	
医療サービス行政の統合化(2)…菊池 幸子…	2
Current Sweden の目次一覧……………	4
スウェーデン経済・社会ニュース……………	5

る。中道政治とかなり違う経済政策(大幅減税論)を主張するポーマンを経済相に起用したために爆弾を抱えることになった。外相ウルステンは「穏健党の減税案は、スウェーデン経済を危くするものであり、承認するわけにはいかない」と言明し、早くも前途の多難を予想させている。また、10月

政変の原因となった原子力問題を今回は共同で解決できるという保証はない。権力渴仰を楽観主義で隠蔽したこの内閣は社民党政治への逆流を喚起する促進剤になるかもしれない。いずれにせよ、80年代が「相互理解の政治samförståndspolitik」を要求していることは確かなようだ。

<巻頭論文参考統計資料>

1979年議会選挙(最終結果)

	1979年選挙			1976年選挙		1973年選挙	
	得票数	得票率	議席数	得票率	議席数	得票率	議席数
穏健党 Ms	1,108,406	20.3(%)	73	15.6(%)	55	14.3(%)	51
中央党 Cp	984,589	18.1	64	24.1	86	25.1	90
国民党 Fp	577,063	10.6	38	11.1	39	9.4	34
(ブルジョワ・ブロック)		49.0	175	50.8	180	48.8	175
社民党 S	2,356,234	43.2	154	42.7	152	43.6	156
左共産党 VPK	305,420	5.6	20	4.8	17	5.3	19
(社会主義ブロック)		48.8	174	47.5	169	48.9	175

(早稲田大学岡沢憲美助教授の作製による)

## 福祉政策の総合化について 研究シリーズ (7)

### 医療サービス行政の統合化 (2)

評議員 文教大学教授 菊池幸子

#### 8 統合化への国民の反応と再改革

医療サービス行政の統合化実施以後の数年間、すなわち1970年代前半においては、スウェーデンの医療保障制度はよくなったが、医療サービスの方法には賛成できないというのが、正直のところ大方のスウェーデン人の定評であった。その理由の一つは、大規模化した病院内部の機構は、細分化され、治療を受ける患者本位ではなく、機構を運営するための官僚本位に仕組まれ、救急患者以外は、診療申込みから検査診断、投薬を受けるまで最低五日から二週間は待たされるというのである。二つめの理由は広域になった病院区は実際居住地からは遠く離れ、たとえ入院を要する患者でも指定地区の指定病院のベッドがあくまで、数ヶ月も待たされてしまうというのである。このような生命ないし人心の不安が医療サービス行政に対する国民の不満となり、1976年の社民党政権の

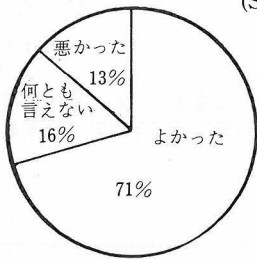
交替時期に到って再高潮に達していた。1976年にスウェーデンの世論調査所(SIFO)と最大の日刊誌ダーゲンス・ニヘッテル(Dagens Nyheter)とが共同で行った、医療サービスの是非に対する意見調査によると、医療サービスに対する不満をもつ患者の数は、1968年当時の同じ調査の約10倍にのぼっていた。(図2参照)

すなわち図2によると、「病院サービスの印象が悪かった、はわずか13%」であり、「誤診や不正な治療を受けて困った」人もわずか16%であるから、医療サービスの質は決して実質的に低下したとは思われないのに、「医療以外の病院サービス、親切さ、看護のし方、安全性」等については、不満をもつ人の比率を合計すると約半数(46%)にも及んでいる。完全な医薬分業制度について或意味の限界を感じる患者が多かった。公共の医療サービス行政に対する不満から、当座の救いを個人開業医に求める患者が、スウェーデン人の中に

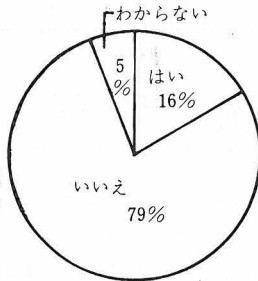
図2. 医療サービス100万人調査

1. 医療サービスの印象

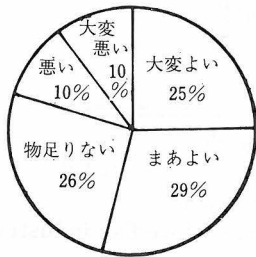
—— 1976年 ——  
(SIFO & Dagensnyheter)



2. 誤診や不正治療を受けたことがあるか。



3. 医療以外のサービス、親切さ、看護のし方、安全の面からどう思うか。



かなり多くなったのは事実であった。政権交替直後に「スウェーデンの社会をどう変えたらよいか」についてのダーゲンス・ニヘッテルによる意見調査では「医療サービス行政の改善を望む」意見が「官僚化のゆきすぎ是正」と並んで第4番目にあげられていた。医療サービス行政に対する国民の不満について、医療担当者は次のように応答してきた。すなわち「1960年代に比べ70年代以降は患者数が激増し、とくに中高年層の患者の激増は、旧制度との比較において批判と不満を表現する。医師、看護婦、その他の専門職員の不足も医療サービスを停滞させる原因である」と。また別の視点からは「病院側では、科学的に病気本位に検査—診断—治療を進めるのに対し、患者は人間本位の要求を病院に提出するからだ」との意見も出されている。

いずれにしても国民から批判の声の高い医療サービスの問題点について、新政権は真剣に取りあげ、分析し、時間をかけて、改善策を生み出していったのである。

患者（国民）の要望に完全に答え得る医療サービスの改善策が完成されたわけではないが、これに対する行政側と患者側との話し合いが幾度とな

く重ねられた結果、1978年の秋頃になって、これに対する各方面からの改善案が新聞誌上をにぎわすようになった。それらの中から、二三の例をとりあげて参考に供しよう。

○病院で検査—診断—処置—投薬を受けるまでの時間を短縮し、人間を人間らしく扱うために、その間の事務操作を簡単にすること。

スウェーデンでは、社会保障、社会サービスとの給付に便利のため、いわゆる国民総背番号つきとなっていて、住民登録地区に、社会サービスに必要な事項を記入したカードが保存されている。

例えば社会サービスに必要な事項を記入する一枚のカードに、疾病治療および心理療法の必要事項も、又行政機構上異なる部門の処置（例えば生活保護）についても一人の人間を一枚のカードに記入するように改革してはどうであろうか。

○病院の診療受けを得るため、長時間列をなして待つのが普通であるが、勤労者にとってこの無駄な時間を省くため、納税者に優先権をもたせてはどうであろうか。

○医療サービス事務に人間味をもたせるため、単に医師、看護婦の人数を増やすだけでなく、かれらの労働時間を短縮し、労働密度を低くして人間性をもたせるようにする。医師養成の教育制度のなかに看護助手の実習期間を入れるなどして、患者のニーズを理解できる医療技術者を配置するのも一案であろう。等々……。

病院行政の統合化によって、医療歳出の減少による財政の再建および広域行政の効率化について、確かにある程度の成果をあげることは出来たが、反面、「人間本位の接触」という社会サービスの真意が損われる面が一時拡大した。しかしあくまで民意を重視するという伝統的に培われたスウェーデンの民主的行政側の態度は、幾度かの試行錯誤を繰り返しつつ、住民のニーズに沿った医療サービス機構を建設していくことであろう。

参考文献・資料

1. Public Health Services and The County Councils in Swedn, by Regional Hospital in Umeå -University of UMEÅ 1200 Beds, Stockholm 1971.
2. Guide to Construction of Social Welfare Facilities in Sweden during the Nineteen Sixties, Guide to Contemporary Swedish Architecture, Part II, Stockholm, 1970.
3. Leif Holgersson & Stig Lundström, The Evolution of Swedish Social Welfare, The Swedish Institute, 1975.

4. Sven Moberg, Administrative Development in Civil Service, stockholm 1976.
5. Swedner-Holgersson, Social Work Practice and Social Work Professions in Sweden, Lund, 1968.
6. Göte Svenson & Bengt Thufvesson, Hur Planeras Sverige?, Stockholm, 1978.
7. Organization of Medical Cares in Sweden, Fact Sheet on Sweden, 1971.
8. 菊池幸子著、「福祉国家のふびと一内側からみたスウェーデン」日経新書 1975.
9. 一番ヶ瀬康子、小野寺百合子著「スウェーデンの社会福祉」全国社会福祉協議会 1971.
10. 拙論「スウェーデン社会はどう変わるか？」地方自治職員研修 1976年12月号 P58-62 公務職員研修協会
11. 拙論「ひずみ広がるスウェーデン型福祉」エコノミスト 1976. 12. 7. 毎日新聞社
12. 拙論「スウェーデンをどう変えたいか？福祉の後退はあり得ない」「健康と自然」1977年3月 健友館

The Swedish Institute 発行

## Current Sweden の目次一覽 (4)

スウェーデンの政治、経済、文化などあらゆる方面のトピックを速報する The Swedish Institute 発行の Current Sweden の最近号の目次をご紹介します。(Vol.10 No.10につづく)。  
内容についてのご照会には、当研究所も可能な限りお答えいたします。(事務局)

<u>No.</u>	<u>Date</u>	<u>Title</u>
202	Nov. 1978	Why do Swedish suburbs look the way they do?
203	Nov.	The Swedish Handicap Movement
204	Nov.	Safety delegates and the workig environment act
205	Dec.	Capital accumulation and ownership structure in Swedish industry- The employee fund debate in perspective
206	Dec.	Narcotic abuse and care of drug addicts in Sweden
207	January 1979	Information on smoking in Swedish schools
208	Jan.	Sweden, an immigrant country as I see it
209	Feb.	Research on immigrants and their political rights in Sweden
210	Feb.	The Swedes and their education
211	Feb.	Energy Conservation Publicity in Sweden
212	Mar.	Swedish data poliey
213	Mar.	Commission on the use of natural resources and environment pro- tection in Sweden
214	Mar.	Training of pre-school teachers in Sweden: urrent structure and some development trends
215	Mar.	Environment protection act under revision
216	April	Youth unemployment in Sweden
217	April	Election year '79 A free-for-all- The outlook as The 1979 election campaign begins in Sweden
218	April	The popular movements in today's society
219	April	Swedish theater for children and young people The child's right to play
220	April	The Swedish concept fof better play facilities
221	May	Election year '79 The employment situation in Sweden- Some main issues looking ahead to The 1980s
222		Children, Radio and Television-Now and in the future
223	May	Election year '79 Swedish energy policy in the shadow of harrisburg
224	May	The Child-Parent Relationship
225	June	Election year '79

226	June	Swedish Family Policy Election year '79 Immigrant Policy
227	June	Election year '79 Taxes—one of the main issues in the 1979 election
228	July	Election year '79 A "Better School" on its way ?
229	July	To Combat Violence in the Child's World Swedish efforts to strengthen the child's rights
230	July	Election year '79 Employee Funds
231	July	Election year '79 The economic situation in Sweden during the 1979 election campaign
232	July	Election year '79 Current Tendencies in the election behavior of Swedish voters
233	Sept.	Second generation issues are the most important in Swedish immigration policy today
234	Sept.	Collective Housing Units in Sweden
235	Oct.	The Right of common access in Sweden
236	Oct.	Industrial Policy in Sweden

---



---

## 最近のスウェーデン経済・社会ニュース (SIPニュース)

---



---

### スウェーデンの新反社民3党連立内閣発足

反社民3党が、175—174の一議席差で、社民ブロック（社民党・共産党）を破った9月中旬の総選挙から4週間後の10月12日、スウェーデンの新3党連立内閣（穏健党・中央党・自由党）が発足した。

新首相は、中央党党首のトールビョーン・フェルディーン（Thorbjörn Fälldin）にきまったが、フェルディーンにとっては社民党が、169—180で44年に渡る政権の座を追われた1976年の総選挙に続く2度目の首相の座。その後原発政策をめぐる閣内対立で、1978年10月に内閣が総辞職してからは、自由党が少数単独政権を率いていた。なお、自由党は9月中旬より新内閣発足まで暫定内閣としてその地位に留まっていた。

#### （政府の政策発表）

政府は、できる限り広い意見の一致を確立すべく努めるであろう。

今年の総選挙の結果としての議会バランスは、各政党が各責任を分担するという特別な必要性を生じさせた、と新首相のフェルディーンは国会の政策発表で述べた。

政府が個人の分散された所有権及び選択の自由

を確保することで、社会的に正しい方向に向けられる市場経済を確立するという事を強調して、首相は、競争を促進させ、公私双方の力の集中を妨げるような手段をとる旨を明らかにした。

強固な経済こそ、福祉、安全、雇用すべての保証における基本的な先決条件である。

インフレとの戦い、予算の赤字を下げ、経常収支における赤字を減じる努力が、主な任務である。

声明は、戦時における中立を目的として同盟への不参加というスウェーデンの政策を再確認した。北ヨーロッパとの協力は今後、さらに発展するであろう。またヨーロッパ諸国との関係が深まり、国連の強力な援助が続くこととなろう。同時に、スウェーデンは、貧困・人類の苦しみと戦い、援助が最も貧しい国々に差しむけられる第三世界に、開発協力をつづけるであろうことを、声明はつけ加えている。

エネルギー政策に関して、新首相の声明はオイルのきびしい節約が必要であること、またエネルギー保存を促進するために国会が石油及び電力の税金値上げにかかわる前に、何らかの提議が出されるであろうことも強調した。

スウェーデンの今後のエネルギー供給における

原子力の役割に関する国民投票は、来年の3月におこなわれるみこみである。

声明によると反社民3党は原発問題に関して、それぞれ違った見解に固執しているが、3党は国民投票の結果が決定的なものであることに関しては意見の一致をみているという。

### 子供による24時間の全国放送

実質的にすべてのスウェーデンの全国放送が、10月13日、土曜日、子供達の手で運営された。

1979年が、国連の国際児童年であることに関係して、このもよおしは、スウェーデン放送の3つの全国ネットにわたり、通常の土曜のプログラムにならって行なわれた。ローカルラジオのステーションは参加しなかった。

国中の約90の中学校から700人以上の子供たち(10歳~16歳)一そのほとんどが、中流かそれ以上のレベルの生徒たちである一がこのもよおしに参加した。その中には、北極圏から200 kmのス

ウェーデン極北の村、カレスアンド(Karesuando)のラップランドの子供たちも含まれている。

子供たちは、プランニングから、録音の立ちあい、生放送に至るまで、放送局のあらゆる製作手順に参加した。いつものプロデューサー連は、作業の管理は許されなかったが、質問に答えたり、技術的なアドバイスをした。

スウェーデンラジオの外国部は、この子供たちがプロデュースしたプログラムを、英語、スペイン語、ドイツ語で放送した。呼びものの一つに、サスカチワン出身の2人の少年によるスウェーデンと北アメリカの生活状況の違いについてのプログラムもまた、子供たちの手によってプロデュースされた。

子供たちによる放送日に、唯一含まれなかったラジオプログラムは、ニュースと天気予報であった。新聞によると、もよおしは、聴取者、放送関係スタッフともに、好評であった。

### 編集部より

内外多難を極めた1979年も終り、1980年の春を迎えることになりました。新しい年が会員の皆様の良い年でありますことをお祈いたしますと共に、当研究所の研究活動に一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



**成文堂**  
振替 東京 6-93491

# スウェーデンの老人と福祉

精スウェーデン社会研究所編  
平田富太郎監修

B6判 / 価600円

最新刊

# 福祉社会スウェーデンの新しい動向

精スウェーデン社会研究所編  
B6判 / 価1600円

国民生活水準の向上にとともに、福祉への要求もより高次元のものへと変化してゆく。しかし、減速化した経済成長の中で種々の困難な問題が派生してきている。今こそ、真の福祉社会に近づいて考えねばならぬ。今後わが国の福祉政策の進む道へ大きな示唆を与えようとする、今後わが国の福祉政策の進む道へ大きな示唆を与えようとするものである。

スウェーデンは世界で第一位の福祉国家であるといわれている。その国の老人福祉の在り方によつて判断できる。この福祉の水準は、老人福祉は、その国の重要な福祉を参考に、老人福祉に、後進国であるわが国の今後、の老人福祉事業に有益な指針を与えるものである。

**社会政策問題**  
労働と福祉に関する研究

平田富太郎著  
A5判 / 価2000円

主要目次  
展覧問題 / 賃金 / 労働関係問題 / 労働時間 / 労働時間短縮 / 労働関係の史的発展 / 賃金 / 労働関係問題 / 労働時間 / 労働時間短縮 / 労働関係の史的発展 / 賃金 / 労働関係問題 / 労働時間 / 労働時間短縮 / 労働関係の史的発展

〒162 東京・新宿・早稲田鶴巻町514 / 電話03(203)9201代 ■ 図書目録贈呈 ■